

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

新たな技能をたくわえることで、
組織と職人の可能性を広げていきたい。

我々は屋根の施工会社からスタートし、リフォーム工事、そして総合建築へと事業を広げてきました。施工範囲が広がれば、外部のいろいろな職人さんに関わるようになります。その中で「あまり多くの方が施工に絡むと効率が悪くなり、工期も延びてお客様にご迷惑をおかけしてしまう…」と感じました。そこで職人を、「多くの技能をもつ多能工として、自社でイチから育てるべきじゃないか?」との考えにたどり着き、新卒の技能者採用を始めました。もちろん社内だけでも教育はできますが、組織内だけで教え合っているだけでは、いずれ頭打ちになるはず。それに現場からはベテランも定年退職し、本物の手仕事を知る職人も年々減っています。誰かいい指導者はいないものかと悩んでいたときに、このマイスター制度が開始されたことを知りました。「これは使わない手はない!」すぐに相談の連絡をして、現在では「建築板金」のほかに、「建築大工」の2名のマイスターによる指導を受けています。ここ数年の間に、技能検定の1級、2級の合格者も出るなど、確実に技能レベルは上がっています。



クラシタス 株式会社
代表取締役社長 廣中聡さん

■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：11回 受講者数：3名
実施場所：クラシタス株式会社 本社内



■ プログラム内容

- 1回目 板金作業の基本(材料の特性・道具の使い方)
- 2回目 図面の読み方/展開図の作成/板取り・切断
- 3回目 展開図の作成/板取り/道具の使い方1(課題の自習)
- 4回目 展開図の作成/板取り/道具の使い方2(個別評価と指導)
- 5回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の使い方1(課題の自習)
- 6回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の使い方2(個別評価と指導)
- 7回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の応用1
- 8回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の応用2
- 9回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の応用3
- 10回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の応用4
- 11回目 展開図の作成/板取り/組立て/仕上げ/道具の応用5



■ 教育プログラムの解説

「人間の手を、最高の道具にする」を合言葉に、大友マイスターと技能振興コーナーとともに、綿密なプログラムを考案。実技指導は毎月1回土曜日に集約し、午前には各々の課題に取り組んでもらう自習時間に。午後はマイスターがその成果物を見ながら指導する時間に。自らの弱点を把握し、重点的に克服することで、限られた時間の中で大きな効果が得られています。さらに多能工化をめざすため、1年を前半・後半に分けて「建築板金」と「建築大工」を学ぶプログラム編成です。

ものづくり企業として、前へ進むために。
つくり手、一人ひとりが進化しよう。

事業の広がりとともに、より多くの技能が求められるようになった、クラシタス株式会社。分業と多能工で二極化する時代において、クラシタスを選んだのは後者の道。ものづくり企業として、これからも成長を続けていくために、マイスターの力を借り、新たな技能の体得に挑みます。

■ ものづくりマイスター派遣先企業

■ クラシタス 株式会社

所在地	宮城県仙台市若林区卸町1-2-6	従業員数	110名
事業内容	住宅・マンションの総合リフォーム、 リノベーション/住宅の新築工事/ 住宅の売買仲介	設立年	平成2年
		資本金	5000万円



座談会
INTERVIEW

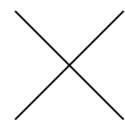
ものづくりマスター × 若手技能者
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真_中央)

大友 正市さん

昭和15年生まれ
昭和44年度 職業訓練指導員免許「板金工」取得
昭和46年度 1級技能士「建築板金(内外装板金作業)」取得
平成25年度 厚生労働省 ものづくりマスター「建築板金」認定

現場での60年近い経験を誇る建築板金のスペシャリスト。自らは叩き上げて学んできているものの、そこには執着せずに、「今の時代に合わせて、楽しさの中に厳しさがある、笑顔のある指導」を掲げる。温かな人柄と的確なアドバイスで、若い職人たちをゴールへ導く。



受講した若手技能者 (写真_左)

関本 政和さん | 平成14年入社

平成29年度 1級技能士「建築板金」取得
マスターの指導と、忙しい中でも練習を怠らない努力で、見事に技能検定の1級に合格。工事部の主任として後輩の育成に燃える現場のリーダー。次は、建築大工の技能を究める。

受講した若手技能者 (写真_右)

横山 二仁さん | 平成30年入社

多能工である父を目標に、ものづくりの世界へ。農業高校出身(実は関本さんも同校の出身)であり、まったくの未経験からチャレンジする。今はただ黙々と技能向上をめざし、練習に明け暮れる。

小手先では意味がない。
“考える力を養う”指導を。

大友さん 今回の現場は、既成品を取り付ける作業がメイン。便利で時間短縮にはなっているものの、職人の力を身につける機会が減っています。技能とは、「図面を読む、寸法を正確に測る、道具を手のように扱う」、そういった自らが工夫しながら考えていくことで磨かれていくものです。

関本さん 今回の指導を受けて、おっしゃることを実感しました。いつもだったら機械を使って一発で曲げられるものが、道具を使った手加工で曲げていくと歪みが出てしまう。いかに日頃から機械に頼っているかがわかりました。

横山さん 私はまだ何もわからないので、すべてが新鮮でした。でも、はさみで板金を切ることさえ、上手いかないなんで…。最初のうちはあまりの難しさに、心が折れそうでした(笑)。

大友さん 職人というと手先を使う技術力にばかり目がいきますが、大事なものはその先にある。技と知識をどう使うか、自分の頭で考える力がついてこそ、本物の技能になるんじゃないかと思う

んです。

関本さん 実技指導はそういう構成になっていますもんね。まずは課題に対して、自分なりの工夫をして取り組んでみる。それが合っているかどうかを、大友マスターのフィードバックで確認し、また自分なりの工夫をしてみる。この繰り返しで、だいたいが実力がついていっています。



マスターの引き出しで、
“楽しさ”を引き出してあげる。

大友さん ちょっと乱暴な言い方ですが、必死で食らいついて努力さえすれば、技能検定などの資格は取れるかもしれませんが、でもそこがゴールじゃない。あくまでも技能を身につけるのは手段のひとつ。みんながこの仕事を楽しん

でくれて、この先もずっと続けていってくれることが、本当のゴールだと思っています。

横山さん 大友マスターは、私の悪い部分と良い部分を教えてくれるので助かります。自分のクセがわかれば、次にどうしていけばいいかが見える。次の日からでも、すぐに現場で活かせるのが嬉しいです。

関本さん あたりまえかもしれないけど、マスターの所作一つひとつにはムダがない。自分が時間をかけてしまうことを、いとも簡単に仕上げる。この一連の動きを、直に目の前で見られるのが、なによりも価値のあることなんじゃないかなと。



努力さえすれば、技能は手に入る。
その力を、どう活かしていくかを考えよう。

大友さん 同じ時間を共有しないと、伝えられないことってたくさんある。まずは教える側の人間が、みんなの技能レベルや性格などを正しく理解しないと。そのうえで、「この子が板金の仕事を好きになってくれるには、どう教えればいいか」を考える。技を伝えるのではなく、全員のやる気を引き出すのが、マスターの役目なんじゃないでしょうか。

“自信”という最大の武器を
自らの努力で手にしてほしい。

大友さん 若手のみなさんが、この仕事をより好きになれる方法のひとつとして、やっぱり技能検定などに挑むのもいいですね。努力が報われる、誰かに認められる、これが嬉しくない人なん

ていないですから。
関本さん 思っていた以上に、仕事と勉強を両立させていくのは大変ですね。だいたいが苦労しましたよ、1回落ちましたね…(笑)。でもそれを乗り越えて、技能検定の1級に合格できたことで、明らかに責任感と自信が生まれました。だって自分から「1級建築板金技能士」といった名刺をお客様に渡しておきながら、汚い仕事なんて恥ずかしくてできません。

大友さん 職人のプライドって、そういうもの。自らを自らが高め、常に上へ上へとめざしていきましょう。横山さんの目標は何か？
横山さん 先輩の名刺、やっぱり羨ましいです。私はまだ実務経験が足りませんが、条件を満たしたら、まずは2級取得に挑みます！

大友さん 成長をいちばん加速させるのは、“自信”という力。この最大の武器を手に入れるためには、苦しい修行期間が必要になります。私にできることは、息の詰まるような日々を、どうやったら若手のみなさんに楽しんでもらえるか工夫すること。私もマスターとして、まだまだ鍛錬しなきゃいけないね。

